

こども通信

このところ、春の穏やかな日差しが快いですね。

でも夜気温が下がったり、逆に夏のような暑い日もあったりと、気候は変わりやすいです。風邪などひかないように気をつけてください。

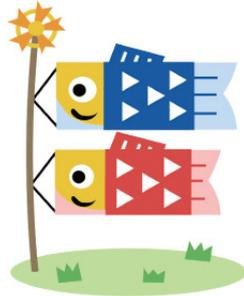
* *

もうすぐ「こどもの日」。青空にたなびく鯉のぼりは、子どもたちが健やかに育つ象徴ですね。

端午の節句というと男の子が主役になります

が、こどもの日は男女の区別はありません。実は以前から「ジェンダーフリー」なんです。

日本の祝日は法律によって決められています。「国民の祝日に関する法律」。そこには「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」とあります。



「こどもの人格」が踏みにじられている状況を、ただ傍観するしかできないのが、何とも歯痒いです。一刻も早くロシアは戦争をやめ、ウクライナに平和が戻ることをひたすら願っています。

ウクライナの子どもたちに、また笑顔が戻るのはいつかのことでしょう。長くかからないといいのですが。

そうなんです、こどもだけではなく、お母さんも主人公なんです！

他に「父に感謝する」という祝日がないかと探しましたが、残念ながらありません。(勤労感謝の日は「国民たがいに感謝する」とあります)

どうしても気になるのが、ウクライナのことです。戦禍の中で、悲しみ、傷つき、時には命を落とす子どもたちがいます。

感染症情報

新型コロナウイルス感染症の第6波がなかなか収束しません。全国的にはピークを超えたとも言われていますが、地方では必ずしもそうではありません。上越地域でも保育園・幼稚園や学校なのでの発生が繰り返しておきています。

政府は春の大型連休中に特に強い行動制限は求めず、県をまたぐ移動も問題なしとしました。完全に収束していない段階で、行動規制の緩和をすることが、今後どのような事態になるのか、不明です。室内や混んでいる場所ではマスクをするなどの個人の感染予防対策は引き続き必要です。引き続き十分に注意してください。

ワクチン接種が進むことで、また流行の様子は変わってくるでしょう。求められている接種は積極的に受けるようにしてください。一般の感染症では、特に大きな流行は見られていません。

感染性胃腸炎は少数ですが見かけます。急に吐いたり下痢をしたりするウイルス性の感染症です。子どもは脱水や低血糖を起こすことがあり、ぐったりしている時はすぐに受診してください。

このほかでは溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎などが少しずつ発生があります。いずれも咽頭痛と発熱が特徴で、登園停止の扱いです。溶連菌感染症には抗菌薬による治療をおこないます。

ヘルパンギーナや手足口病といった夏かぜも少数ですが見かけます。コロナ禍で、感染症の流行パターンは変化してきました。

水曜午後はコロナワクチン外来

- 現在、毎週水曜午後は子ども用コロナワクチン専門の外来を行なっています(5~11歳)。
- 上越市、妙高市の方は市の用意している専用のサイトから予約してください。糸魚川市の方は医院へ直接お電話ください。
- 水曜午後の一般外来は休診です。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。

今月の予定

院長・副院長出務

- 上越市立たにはま保育園健診 11日
- 聖母マリアこども園保育園健診 18日
- 上越市立有田保育園健診 25日
- 上越三ツ屋わくわくちびっこ園健診 25日
- 上越市夜間診療所勤務 18日
- 上越有線放送「健康ライフ」17日
- FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
- 毎週木曜午後1:20頃~(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

- FM上越: 木曜午後1:35頃~
- 上越有線放送: 月曜午後6時~(番組内)
- 医院ホームページ内

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-iin.com

制度誕生までの秘話

今年度から、園や学校で急に体調不良になった子を、保護者に替わって当院の保育士等がお迎えに行くというサービスが始まりました。

上越市が「送迎対応病児保育事業」を開始し、それを当院が受託したことで実施になりました。

子どもたちは病気をするもの。そして、子どもの病気は急に始まるけれど、大人の仕事は急には休みづらい。そんな時に、急な依頼でも断らずに預かることをモットーに病児保育室を運営してきました。

今年度からは、園や学校での急な体調不良でも、保護者の都合がどうしても合わない時でも、私たちが対応することが可能になりました。

●二つの発端

それは3年ほど前に遡ります。私の旧来の知人が、その息子さんの同級生で病児保育に関心を持っている医師がいて、見学に行きたいと言っているよと連絡が入りました。

どんな方かは分かりませんが、見学もボランティアも常時大歓迎。その旨を伝えたのですが、その後のコロナ禍でなかなかお会いできずいました。

ことが動いたのが昨年春。東京とリモートでの面談の機会をえましました。

この方は園田正樹さん。産婦人科医でもあり、IT関係の起業家として活躍されています。病児保育に関心をもたれ、もっと利用して欲しいとの思いから、複数の病児保育室をネットワークで結んで利用できる予約システム「あずかるこちゃん」を開発。子育て支援の活動が評価され、政府の委員も勤めています。

糸魚川市がご出身で、上越ケーブルビジョンの番組でも取り上げられたことがあります。(ご関心のある方はネットで検索してみてください)。

そこでは、私の病児保育に対する思い、これまでの経過などをお話し、園田先生の熱い思いを感じることもできました。当施設の現状や、上越市の病児保育関係の予算(利用数に

よらず一定の補助額を決めるという方法ですが、これは実は全国的にも稀で、先進的な事業なのです)などについては、おそらく園田先生の政府関係の仕事のお役に立っているのではないかと思っています。

先生からは私に提案がありました。それが「お迎えサービス」です。

これはすでに厚生労働省が病児保育事業の一環として予算化しています。全国でも徐々に導入が進みつつあり、そのいくつかの例も教えていただきました。県内では新潟市や糸魚川市ですでに始まっています。

このリモート面談をした時は、わたぼうし病児保育室の開設20周年を目前にしていた頃でした。必要性はよく分かりましたし、国の予算を使うことで、実施する市の負担も軽減されるので、事業化の検討を始めました。「20周年記念事業」という名目をつけることもできそう。

しかし、そこに病児保育室があまりに繁忙になるという事態が襲ってきました。ちょうどRSウイルス感染症の大流行が重なり、最高で1日に49名の子どもたちを預かりまし

た(この時は51名の希望がありました。親御さんをお願いして数名の方にキャンセルさせてもらいました。当院にとっては、これは非常事態！)。

そんなことで、保育する側に余裕がなくなり、お迎えサービスを実施は当面不可能と判断しました。

●新市長の公約

大きく前進したのは、昨年10月に中川新市長が病児お迎えサービスを公約に当選したからです。

昨年秋に増築した保育室新棟の完成披露に来ていただいた市長さんと面談し、そこで合意。直ちに市の事業化に向けて動き出しました。

わずか数か月で実現に漕ぎ着けたのは、市長さんの子育てに対する強い思いがあるからだと思えます。

残念ながら、今の状況では感冒症状などではコロナも否定できません。のですぐに迎えにはいきません。

でも制度ができたことは大きな意味があります。お迎えサービスが一層お役に立てるように、大切に育てて行こうと考えています。